

日系アメリカ人について

佐藤 達志 (高校2年)

僕はアメリカに行き多民族国家を肌で感じる事ができ、異なった肌の色や背景を持つ多くの人々に出会いました。その中でも日系アメリカ人に僕は興味が湧きました。今回のプログラムには日系アメリカ人国立博物館を訪ねることが組み込まれており、そこで僕は彼らについて多くのことを学びました。

日系アメリカ人の始まりはハワイに労働をしに来た日本人の方々でした。当時ハワイはアメリカ合併前の独立国で彼らはサトウキビ農業をするためにやって来ましたが、搾取をされてしまったので、ハワイを離れアメリカ本土へと移りました。そこで彼らはマグロ漁の技術が高く評価されていましたが、移民の数が増えるにつれて、快く受け入れられず、差別を恐れ日本人同士で集まって暮らしていました。

そして、太平洋戦争を始めるきっかけとなった日本による真珠湾攻撃をアメリカ側が卑劣な奇襲攻撃と捉え、日系人は迫害され収容所へと送られました。収容所は環境の劣悪な土地に馬小屋のような建物で、プライバシーも奪われるような環境でした。それでも子供たちに勉強を教え、野球をしたり、日本の伝統的な踊りをしたりすることで、彼らは正気を失うことなく、収容所内で生活をしていきました。

また彼らはただ劣悪な環境に耐え忍んでいただけでなく、遠く先の将来のことまで考えていたので、自分たちの子孫を差別から守るために、第二次世界対戦中アメリカ軍が兵を募集した時、日系二世の人々は志願したのです。彼らの強い意志は日系アメリカ人同士の強い絆を作り出し、敵から投げ込まれた爆弾に身を覆い被さり、多くの仲間の命を救った日系アメリカ人の兵士もいました。そして彼らは見事に戦争で大きな成果を出しました。彼らの功績は戦後認められ、2000年にはクリントン大統領より最高勲章をもらった方も少なくはありません。今、かつての彼らの将来を見据えたあの強い意志は実を結び、今日の日米の友好関係、日本人や日系アメリカ人の笑顔ある生活を築く大きな糧となりました。

トーランスに滞在していて誰もが私たち日本人に対して親切で、「こんにちは。」とカタコトで言ってくれる人もいました。これは当たり前が出来上がったものではなく、かつての日系アメリカ人が血の滲むような努力で築き上げたということ、日系アメリカ人国立博物館を訪れ、日系アメリカ人兵士の名が所狭しと刻み込まれている GO FOR BROKE の石碑を見て思い知りました。

また、今回日系アメリカ人について学んだことについて振り返ると、かつてのアメリカは今の日本のように感じました。というのは、日本には中国、韓国、ベトナムなどの人々を差別している人が多いと感じます。それは最近のニュースなどで彼らの悪い印象が植え付けられているからだと思います。しかし彼らは本当にそのニュースの通りなのでしょうか？このままかつてのアメリカのように僕らが彼らを差別し続けてしまうということは何としても止めたいと思います。僕は今回日系アメリカ人について学び、差別の悲惨さも学び、差別はこの世からなくなるべきだと思いました。今回僕がアメリカで得た経験を活かし、今、日本で差別の対象となっている人々を、僕らがトーランスで受けたような温かさを持って快く日本へ迎え、僕の周りから差別を無くせれば、と思っています。

